



テーマ 住まいと健康の不安に応える安心サポート



▲俳句の会(土曜会)の風景

時代の先端を行く「サンヒルズ・ヴィラ・アンキーン」

サンビレッジ宮路 施設長 久野 美智江

厚生労働省は「2015年の高齢者の尊厳を支えるケアの確立への方策」の中で新しい「住まい」のあり方を示しています。団塊世代の方々が高齢者人口に突入する時代がそこまできています。

自宅でもなく、施設でもない「新しい住まい」、それがサンヒルズ・ヴィラ・アンキーンです。自然豊かな環境で、木の温かみの感じられる住宅では安気に「我が家のくらし」を悠々自適に楽しんでいただけます。不安になった時、いざという時には備え付けの緊急コールで24時間365日体制の生活相談員が支援いたします。またお身体の機能が低下された時は必要なサービスをコーディネートし介護保険を活用し支援いたします。ご自分で動くことが難しくなった時も最後まで「暮らす」とことは可能ですし、望まれば重介護施設への転居も可能です。

新しい環境に馴染める内に住み替えていただきますと、ご自分の今までの生活スタイルを継続させながら、徐々にアンキーンでのあなたらしい生活を創っていただけます。私共はそのサポートをチームでさせていただきます。一番不安の多い健康や病気に関わる悩みにつきましても若い常勤の医師が法人に配置されており、医療機関との連携もスムーズにできております。その為に、それぞれの方の「人生観」「死生観」を予め「あなたからのメッセージ」として伺っておき、個々の思いに添えるように努めています。

ご利用しておられる方の多くは、将来の安心をキープする為に「住み慣れた我が家」からの住み替えです。また、「まだ早いかな、でも要介護状態になった時がやはり心配」と感じておられる方も少なくないはず。先々の不安は自分で決められる内に……。アンキーンの「安心の予約」は老後の自立を考える方の「不安」に応えてくれるでしょう。

『私の思い』

サンビレッジ新生苑 常勤医師 今村 寧

平成16年12月1日をもって社会福祉法人新生会の常勤医師に就任させていただきました。特別養護老人ホームに就任してなにをすることがあるのかと質問を受けることがあります。この総合ケアセンターサンビレッジには私を惹きつける多くのものがあるのです。

もともと私は父の後を追うように外科医となり、約



サンビレッジ新生苑 常勤医師 今村寧

7年ほど愛知県豊田市や大阪の病院に勤務していました。多くの癌患者を手術し、ターミナルも経験させていただきました。現在の様に在宅に目が向いたのは平成11年のある患者の看取りからでした。50歳の膵臓癌患者から家に帰りたいたいの訴えがあり、亡くなるまでの3週間ほぼ毎日往診に通うことになりました。この在宅医療をして気づいたこ

とは、家を見ることが患者さんの生活とその環境を理解する大きな情報源となることでした。もちろん病院でも生活歴など細かな調査は行われますが、それよりはるかに沢山の情報が一回家を訪問するだけで瞬時に理解できるのです。病気を診て人を診ずという言葉の意味を、恥ずかしながらやつと実感できたきっかけとなりました。病院で本当の医療をするのにどうしたらいいのだろうか悩んでいるときに、東京都板橋区ですばらしい在宅医療を行っている医師がいると石原美智子(理事長)より紹介を受け、大学病院との関係を断ち切る形になりました。約3年8ヶ月、在宅医療の一から教えられ、かかりつけ医(主治医)の大切さを知りました。私はその患者さんの医療のプロフェッショナルとなり、在宅・施設問わず最後まで継続して関わっていきけるような医療を目指したいと心に思いました。

このような経過を経てサンビレッジに就職となりました。が、決して生まれ故郷だからとか、血のつながりだけで戻ってきたのではありません。その総合ケアセンターサンビレッジにはすでに介護基盤が高いレベルで築かれ、その理念も共通する所があるため、私が目指す「最後まで継続する医療」を実現できる環境が存在するからここにいます。介護と医療を隔てず、融合した形を実現できるよう努力していきたいと思います。



「訪問看護で予防のサポート」

訪問看護ステーションサンビレッジ新生苑 チーフ 唐田しのぶ

私達訪問看護師は高齢者のみではなく幅広い年齢層や医療依存度の高い方まで多様に訪問しています。今までにご夫婦や親子での利用もあります。

また、重度の方ばかりでなく、ある程度日常生活の自立はしているがなんらかのかたちで援助が必要な要介護度1、要支援の利用者もみえます。訪問看護というと重症とか大げさとか思われる方も多いと思いますが、定期的な血圧測定、定期受診の勧め、主治医への相談の仕方、内服のアドバイス、健康相談、家族への援助をすることで利用者



▲予防介護に看護師が当たる

のみではなくその家族も同様に予防の看護を行なっています。

現在その対象になつている利用者が全体の約40%おられますが、その方達はいろいろな趣味を持っており自分なりの生活をしていきます。少し体調が悪くなると病院へ行くよりも先に訪問看護師に相談していただける方もあります。

また、地域で医療をしている主治医と同行訪問をすることで在宅生活の状況をより詳細に共有し、安心した在宅生活を送れるようサポートをしているケースもあります。

予防をすることで今までの体調を維持しつつ在宅で生活



▲利用者から薬の説明をもとめられる訪問看護師

ができ、その人なりの人生が送れるといいと思ひながら訪問をしています。

いつまでも趣味を続けられ元気に生活ができるように最後までサポートをしたいと思ひます。

「デイでも楽しく」

サンヒルズ・ヴィラ・アンキーノ 桜坂 十甫

アンキーノで御世話になつて三年になる。実に心地がいい。人と人との繋がりがどれだけ大切なのかの証でも

ある。

”終の栖”として選ばれたのだからサンビレッジ宮路の接触は多く、催される行事



▲ちゃばばで行われるお茶会

にはよく参加させて貰っている。その内容も多岐に亘り個々の嗜好に合わせて選択し、デイ・サービスの人達と共に楽しんでいる。私は音楽を聞くのが好きでイベント・コンサートに参加してリフレッシュさせて貰っている。残念ながら歌唱や演奏が出来れば、それ以上の楽しみが増え、それが才能の問題で止むを得ない。

手芸・陶芸・茶道・書道・工作・料理など幅広く、不器用な私はうらやましい。

私は唯一土曜会という俳句の会に参加させて貰っているが、このグループは実にアウトホームで多少サロンの面もあるが居心地がよい。

元来結社システム嫌いな私だがデイ・センターの企画行事の一環としての発足理由が、そういったフリートークの楽しさを味合わせているものと思う。

今後は男性陣の参入を大いに期待したい。

俳句の会「土曜会」

サンヒルズ・ヴィラ・アンキーノ

相談員 金丸 智恵子

ヴィラ・アンキーノでは、入居者・デイサービス利用者の共有施設であるデイサービ

スセンターちゃばばをサロンの利用し、生活に楽しみ・刺激を与えてくれる活動を行っています。

俳句の会「土曜の会」もその一つです。

そこには俳句のお好きなアンキーノご利用者、デイサービスセンターご利用者、土曜会の方が名づけ親で俳句を一丁前に持った職員が参加しています。四季折々の姿を見せてくれる周囲の自然環境の散策で、題材には事欠きません。またその散策の中で新たな発見をしたり、ご利用者同士の話題となったり、和やかな雰囲気の中楽しく行われます。普段の生活の中で「あつ、これを俳句に読んでみよう」などの趣味の部分としても楽しみになっています。